

2020年度協会賞審査結果について

私立大学図書館協会会長校 國學院大學図書館
館長 遠藤 潤
私立大学図書館協会協会賞審査委員会
委員長 木下 和彦
(慶應義塾大学信濃町メディアセンター)

2020年度協会賞の推薦について、協会賞審査委員会(2020年度第2回:2021年1月21日開催)および東西合同役員会(2020年度第2回:2021年3月5日開催)において協議いたしましたところ、下記のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。

なお、協会賞の表彰は、2021年9月開催の第82回総会・研究大会にて行われる予定です。

記

① 推薦の概要

名古屋経済大学図書館

- ・種別 第2部(経営管理業績・協会活動業績)
(5)の2 図書館・情報学・大学図書館発展への寄与部門
- ・候補者 瀬戸有希子、杉浦未布子、寄本真里、阿部由貴、蒲生英博(敬称略)
- ・業績 論文「高大連携における大学図書館の役割」と「高大連携と大学図書館」
サイトの構築

② 審査結果

採択

③ 審査結果について(採否の理由、付帯意見など)

名古屋経済大学図書館は10年以上に渡り高大連携活動を継続しており、その活動を元に大学図書館における高大連携について包括的にまとめた論文を2020年に『大学図書館研究』で発表した。またインターネット上にウェブサイト「高大連携と大学図書館」を構築し、自館におけるこれまでの取り組みに加え、他大学図書館における事例や参考文献も紹介するなど、大学図書館における高大連携活動のポータルサイトとなっている。

大学図書館における高大連携活動自体は目新しいものとは言い難いが、自らの取り組みを積極的に発信し、また他大学の取り組みも紹介するなど、これから高大連携に取り組もうとする図書館にとって大いに参考になる。また、論文とウェブサイトの相乗効果により、高大連携活動に対する理解をより深められる点を評価した。

所属大学が高大連携に取り組む場合、一般的には出張講義などが中心となりがちであるが、論文内でも言及されているように図書館が積極的に関係することで、学内における図書館の存在意義のアピールにつながる面がある。この点は重要な指摘であり、今回の受賞を機に、新たに高大連携に取り組む図書館が増えることを期待したい。

以上のことから、本件は大学図書館発展へ寄与するものと認められ、協会賞審査の申し合わせ事項の採択可否ポイント(イ)、(エ)、(キ)に該当すると判断し、協会賞に採択する。

以上